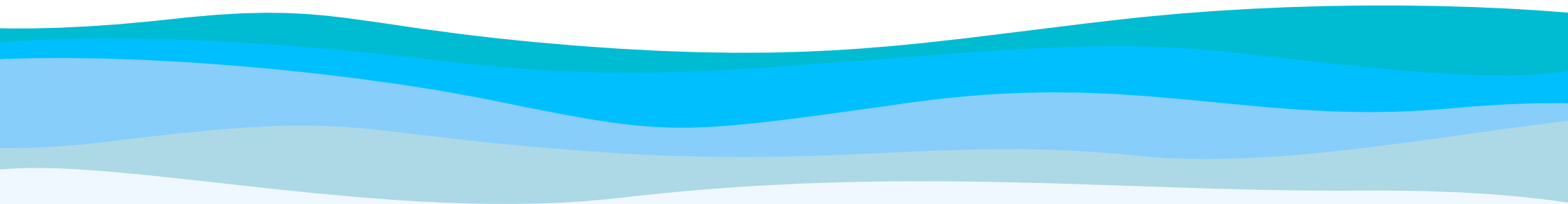




Sea Turtle Ecology Lab

Annual report 2024 2024.4 - 2025.3



ウミガメ、いのち、未来へつなぐ

わたしたちは、ウミガメを見つめ、その知られざる生態を解明し、絶滅の危機から未来へとつなぎます。

悠久の時を生きるウミガメ

1億2,000万年以上前 — それは恐竜が地上を闊歩し、魚竜や首長竜が海の中で繁栄していた時代。その遙か昔にウミガメの祖先は誕生しました。そして、大陸移動や地磁気の逆転、繰り返す気候変動など、地球規模の環境変動に適応しながら、悠久の時を生き抜いてきました。

多くの謎に包まれて

これまでの研究により、ウミガメの生態の一部は解明されつつありますが、このような地球規模の変化にどのように適応してきたのか、それはまだ十分に解明されていません。その他にも、回遊ルート、回遊の方法、産卵場所、性比、稚ガメは海に出てどのように回遊し成長するのか — ウミガメはいまだ多くの謎に包まれています。

絶滅の危機にあるウミガメ

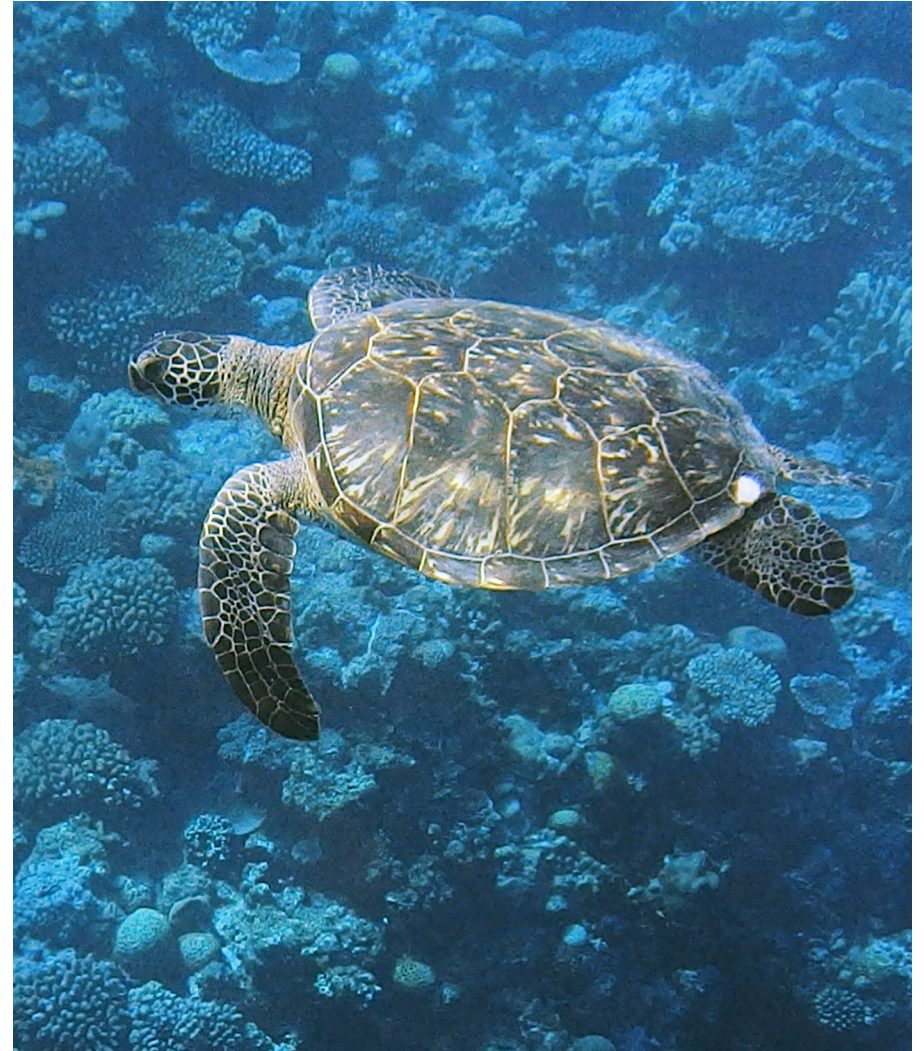
今、世界のウミガメは絶滅の危機に瀕しています。多くの地域でウミガメの捕獲は禁止されましたが、生息数は増えていません。そして、世界中で多くの保護活動も行われていますが、必ずしも結果は伴わず、むしろ生息数が減少している場合もあります。かつて日本の海でよく見られたアカウミガメも例外ではありません。彼らは北太平洋で唯一、日本の海岸だけで産卵しますが、近年その数は激減しています。なぜでしょうか。

未来へつなぐ

わたしたちは、国内外の研究者や団体、個人の方々とともに、ウミガメの生態を明らかにし、ウミガメを将来に残す活動をしていきます。そして会員の皆さまとともにウミガメについて考え、「ウミガメ学（Sea Turtle-ology）」を創造します。これまでの研究や現場での生態調査などから、地磁気の影響や人間の過度な介入がウミガメに悪影響を与えていることが分かりつつあります。わたしたちは、このような科学的な裏付けをもとに、世界のウミガメを絶滅の危機から未来へとつなぎます。

ウミガメの未来をあなたとともに

ウミガメの謎に挑み、ウミガメを未来へとつなぐ旅へ、さあ、一緒に歩いていきましょう。



©North Island

ごあいさつ

「私たちはウミガメについて何を知っているのだろうか？」

1872年12月21日にイギリスのボーツマスから1隻の帆船が出航しています。チャレンジャー号です。1876年5月24日までの1606日間に13,000種以上の海洋動植物標本や海底地質サンプルなどを収集しています。この報告書の中にWilliam K. Parkerによるアオウミガメの詳細な胚の発生図があります。これが世界で初めてのウミガメに関する報告書となっています。約150年前のことです。

それから80年の後、1950年代後半になって、インドのDr. Paulus Deraniyagalaが現在のスリランカでウミガメの調査を行い、それに続くようにアメリカのフロリダ半島ではDr. Archie Carrのアドバルーンを使った追跡や繁殖行動など、オーストラリアのDr. Robert Bustardのウミガメの繁殖状況の研究が、今日のウミガメ調査や研究の方向性を示しています。近年になって、ウミガメの研究は細分化され、特に遺伝子による系群判別や、衛星発信器による追跡の研究が主流となっています。反面、ウミガメの減少に伴いウミガメの卵を盗掘や水没から守るための保護活動が世界中に広がっていますが、多くのウミガメの繁殖地ではウミガメは減少しています。なぜでしょうか。

私自身、ウミガメを見つめ続けて48年になります。最近になって気づいたことがあります。研究にしろ、保護活動にしろ、人が関わっている地域のウミガメは減少しています。人とウミガメとの関わり方を改善しなければ、地域的に絶滅すると確信するようになりました。そのため、ウミガメを絶滅させないため、そしてその命を未来へとつないでいくため、国内外の研究者や団体、多くの人々とのネットワークを構築するために当団体を立ち上げました。

ウミガメをさまざまな角度から科学的に解明し、得られた知見をもとにした「ウミガメ学（Sea Turtle-ology）」の構築を目指し、ウミガメを絶滅させない活動を進めてまいります。

今後とも、私たちの活動にご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2025年3月吉日

NPO法人 Sea Turtle Ecology Lab

理事長 菅沼弘行

〈理事長略歴〉

東京都海洋環境保全協会小笠原海洋センター館長、NPO法人エバーラスティング・ネイチャー会長等を経て、2024年STEL設立。日本ウミガメ協議会設立／副会長、国際ウミガメシンポジウム理事、IUCNウミガメ専門家グループ委員等を歴任。2019年、国際ウミガメ学会特別功労賞受賞。著書：『ウミガメは100キロ沖で恋をする』（方丈社）ほか

目次

ウミガメの不思議と「ウミガメ学」

設立からのおもな取り組み

2024年度のおもな活動報告

2025年度のおもな活動予定

決算・財務のご報告

一会員の皆さまとともに

団体紹介



©North Island

ウミガメの不思議と「ウミガメ学」

1億2,000万年以上前：ウミガメの祖先誕生
(恐竜・魚竜・首長竜のいた時代)

ウミガメの歴史

350万～500万年前：現生のウミガメ誕生
(現生のほぼすべての動物が誕生)

地球環境の変動：大陸の大移動、地磁気の逆転、気候変動、海洋環境の変化、隕石の衝突による生物大量絶滅など

現在

現生のウミガメは7種 (すべての種で絶滅が危惧されている)

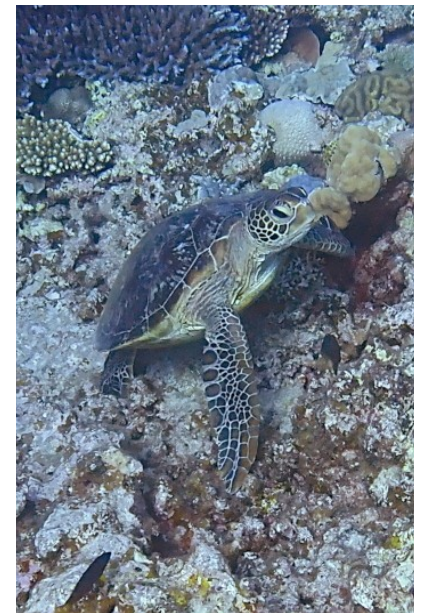
オサガメ	アオウミガメ	アカウミガメ	タイマイ	ヒメウミガメ	ケンプヒメウミガメ	ヒラタウミガメ
地球上で最も大きい爬虫類。繁殖地は太平洋・大西洋・インド洋の東西にある。おもにクラゲを餌とする。甲長は130～170cm(2m以上になることも)。	頭は丸くて小さく甲羅は丸みを帯びる。各大洋の熱帯から亜熱帯が繁殖地。ウミガメ類唯一の草食性(海藻や海草)。長期航海の食糧にもされた。甲長は80～110cm。	頭は大きく甲羅はハート型で背面は赤茶色。各大洋の亜熱帯から温帯が繁殖地。北太平洋では日本が唯一の繁殖地。雑食性(貝類、カニなど)。甲長は70～100cm。	小さな頭でとがったくちばし甲羅はきれいなモザイク模様。熱帯地域で多く繁殖。甲羅はべっ甲細工の材料とされる。カイメンなどを餌とする。甲長は60～80cm。	オリーブヒメウミガメ。ベネズエラとフレンチギアナが繁殖地。アリバダと呼ばれる集団産卵をする。かつてカバンなどの材料として輸入されていた。甲長は60～70cm。	メキシコのカリブ海側が繁殖地。絶滅の危機にあったが、米政府が底曳網漁船へのウミガメ排除装置(TED)の装着を法制化、アリバダがみられるまで増加。甲長は60～70cm。	オーストラリア沿岸だけに生息し、沖合への回遊は行わず、大陸北側の沿岸を回遊。甲長：80～100cm。

※日本近海で見られるのは、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ。オサガメやヒメウミガメもまれにみられる。

ウミガメの不思議

地球環境への適応	ウミガメの祖先は1億2,000万年以上前に誕生し、大陸の大移動、地磁気の逆転、気候変動、海流や水温といった海洋環境などの変化にどのように適応してきたのでしょうか？
産卵場所	同じ海岸でも、種によって波打ち際近くで産卵したり、海岸の奥の草が生えている場所で産卵したりします。また、産卵する砂の深さも違ってきます。なぜでしょうか？
オスとメスの比率	ウミガメは卵の時の砂の温度によってオスとメスの割合が決まります(ほぼ29℃で1:1)。産卵場所や砂の深さが違うと、砂の温度に差が出ると考えられますが、実際には、その割合はほぼ1:1になるようです。なぜでしょうか？
海洋の大回遊	回遊には地磁気などを利用しているといわれていますが、その仕組み、回遊経路や回遊方法などの詳しいメカニズムは解明されていません。地磁気の逆転にはどう適応したのでしょうか？ また、ふ化したばかりの稚ガメがどこでどのように海洋を回遊し成長しているのか、その期間はロストイヤーズ(Lost Years)と呼ばれ、いまだに最大の謎のひとつです。
その他	基礎的な生態の多くはまだ未解明です。生態を理解するには人間活動による影響を知ることも必要です。

ウミガメの不思議を解明し、絶滅を防ぐため、多様なネットワークを構築し、科学的な視点から、「ウミガメ学(Sea Turtle-ology)」を創造します。



©North Island

—— 設立からのおもな取り組み ——

2024年	2月	特定非営利活動法人Sea Turtle Ecology Lab設立
	6月	日本語ウェブサイト公開
	7月	宮崎県のアカウミガメに関する調査・研究開始 英語ウェブサイト公開
	11月	第1回「ウミガメ会」開催 アカウミガメの仔ガメの行動追跡調査開始 コミュニティサイト開設
	12月	第35回日本ウミガメ会議宮崎大会にて口頭発表
2025年	1月	宮古島に生息するウミガメ類の予備調査
	2月	設立1周年
	3月	第2回「ウミガメ会」開催 ネイチャーポジティブ宣言・30by30アライアンス参加

※このほか、企業や大学サークル・研究会などを対象にした講演会を開催



©North Island

—— 2024年度のおもな活動報告 ——

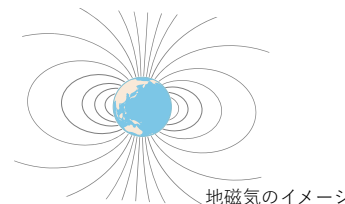
● 宮崎県のアカウミガメに関する調査・研究

— 宮崎野生動物研究会との協働研究

宮崎県で繁殖するアカウミガメの生態に関する協働研究を進めています。この研究では、ウミガメの基礎的な生態を明らかにし、人の行為がウミガメに及ぼす影響を解明することを目指しています。

アメリカでの研究により稚ガメが地磁気（地球の磁場）の影響を受けていることが知られています。この研究でも、卵の胚が地磁気の影響を受けていることが分かり始めています。また、人為的に移植された卵の胚が特定の方向性を持たず、回遊に深刻な影響を与える可能性が見えてきました。

ウミガメは何百万年も前から地球に生息し、氷河期のような大きな環境変化を乗り越えてきました。ふ化時の温度で性別が決まるなど、ウミガメの生態は地球の環境と密接に関わっています。この研究を通して、ウミガメが厳しい環境をどう生き延びてきたのか、その基礎的な生態の解明を目指していきます。



地磁気イメージ



宮崎県の砂浜
写真：菅沼弘行
(STEL)

● アカウミガメの仔ガメの行動追跡調査

— Upwell・沖縄美ら海水族館との共同研究

沖縄県伊江島沖で、小型衛星タグを装着したアカウミガメの仔ガメ12個体を放流し、回遊生態に関する国際共同研究を開始しました。

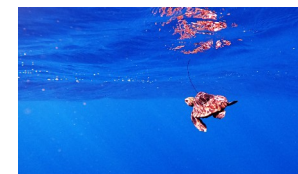
この研究は、ウミガメの「ロストイヤーズ」と呼ばれる、生まれてから数年間の仔ガメがどのように回遊し、成長しているのかという長年の謎の解明につながるものです。

国内でふ化後3ヶ月の仔ガメを対象にした追跡調査はこれが初めてで、国際共同研究としても最先端の試みです。

得られるデータは、絶滅が危惧されているアカウミガメを効果的に保護するための戦略を立てるうえで、とても重要な手がかりとなります。また、海の環境変化や人間活動がウミガメに与える影響の理解にも大きく貢献すると期待されます。



小型衛星タグを装着した
アカウミガメ
写真：奥山隼一 (STEL)



小型衛星タグを装着し海へ
放流されたアカウミガメ
写真：国営沖縄記念公園
(海洋博公園) / 沖縄美ら海水族館

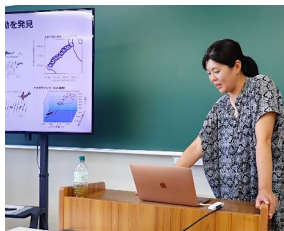
● 先島諸島に生息するウミガメ類の調査・研究

宮古島に生息するウミガメ類の生息状況や繁殖の実態はよくわかっていません。2025年度からの本格的な調査を見据えて、現地の関係者と予備調査を行いました。

● ウミガメ講演会

ウミガメのことを一緒に考えていくネットワークを広げるため、企業、団体、大学サークル・研究会などの方々を対象に、講演を行いました。講演内容は、ウミガメの不思議、ウミガメと人間との関わり、研究や保護活動の現状、研究成果、そしてSTEL設立の意義などです。

開催場所：東京都（東京海洋大学・2回、川崎汽船株式会社）、愛知県（密蔵院）、三重県（三重大学・2回）、宮崎県（宮崎野生動物研究会）。計7回。



● 日本ウミガメ会議での発表

第35回日本ウミガメ会議（宮崎大会）で、理事長の菅沼が口頭発表を行いました。

〈演題〉『Sea Turtle Ecology Lab (STEL) とは』

〈内容〉保護活動の現状や移植の問題点を指摘し、ウミガメを絶滅させないためには、科学的な視点からの生態の理解が必要であり、多様なネットワークを構築し、保全へとつなげる重要性を訴えました。



● 「ウミガメ会」

ウミガメに関する話題を取り上げ、会員の皆さまと考えるオンラインイベントを開催しています。開催概要は下記のとおりです。会員はアーカイブ視聴ができます。

回	開催日	タイトル	講演者
第1回	2024年 11月29日	ウミガメ研究・保護活動のいま、 そしてウミガメ学へ	菅沼弘行 (STEL理事長)
第2回	2025年 3月2日	ウミガメの回遊史の謎に挑む！！ 北太平洋のアカウミガメ（前編）	奥山隼一 (STEL)

● ウェブサイト・SNS・コミュニティサイト開設

ウェブサイトや各種SNSを通じて、ウミガメの現状、当団体の活動内容や研究成果などを広く共有し、ネットワークを広げていきます。

ウミガメのことを会員の皆さまと一緒に考えていく場として、また会員同士の交流の場としてコミュニティサイトを開設しました。

● ネットショップ開設

ウミガメグッズを販売しています。今後ラインナップを充実させていきます。

● 生物多様性保全の取り組み

環境省の推進する生物多様性保全の取り組みに賛同し、「ネイチャーポジティブ宣言」を表明、「30by30アライアンス」に参加しました。ウミガメの生態を科学的に解明する活動を通して、海洋生態系や生物多様性の保全に貢献していきます。

※活動の詳細はウェブサイトの会計報告もあわせてご参照ください。

—— 2025年度のおもな活動予定 ——

● 宮崎県のアカウミガメに関する調査・研究

— 宮崎野生動物研究会との協働研究

昨年度に引き続き、宮崎県で繁殖するアカウミガメの生態に関する協働研究を行います。特に、宮崎県で繁殖するアカウミガメはどこで餌を食べているのか、窒素安定同位体比分析により明らかにしていきます。

● アカウミガメの仔ガメの行動追跡調査

— Upwell・沖縄美ら海水族館との共同研究

昨年度に引き続き、アカウミガメの仔ガメに小型衛星タグを装着し、回遊生態に関する国際共同研究を行います。

● 先島諸島に生息するウミガメ類の調査・研究

宮古島でウミガメ類の生息状況や産卵などの実態調査を行い、石垣島・西表島で産卵巣の被害の状況調査や食害防止対策の検討を行います。

● ウミガメ講演会の開催

行政、企業、団体、大学サークルや一般の方々を対象に講演会を行い、ウミガメのことを一緒に考えていくネットワークを広げていきます。

● 「ウミガメ会」の開催

ウミガメ研究などの話題に加えて、「ウミガメ学」構築に向けた話も展開していきます。オンライン開催予定。

● コミュニティサイトでの議論

会員同士の交流の場であるコミュニティサイトを活用し、「ウミガメ学」構築に向けた議論を深めていきます。

● 国際ウミガメシンポジウム（44th ISTS* Symposium）への参加

ウミガメは海洋を広範囲にわたって回遊するため、その生態を理解し、絶滅を防ぐには国際的な協力が必要です。世界の研究者や団体などと交流を深め、海外のネットワークも広がっていきます。

*ISTS：International Sea Turtle Society

シンポジウム概要：開催場所はハワイ（アメリカ）、2026年2月28日～3月6日開催予定。

STELは環境省が推進する生物多様性保全への取り組みに賛同しています



NP宣言

ネイチャーポジティブ宣言



30by30アライアンスメンバー

決算・財務の概要

私たちの活動を支えてくださった皆さま、本当に有難うございます。設立間もないということもあり、少しずつではありますが、着実に活動を広げることができました。

収入と支出の概要は、次のとおりです。詳細はウェブサイトの会計報告もあわせてご参照ください。

区分	金額（円）	内容
〔収入〕の内訳		
会費	300,000	みなさまからのご支援です
寄附金	3,845,000	団体設立に当たりお寄せいただきました
その他の収益	4,996	グッズの売上などです
<u>収入合計</u>	<u>4,149,996</u>	
〔支出〕の内訳		
活動費（事業費）	1,610,254	調査・研究、広報、講演会などにかかる費用および人件費
活動費（管理費）	781,934	通信費、各種手数料など運営にかかる費用および人件費
<u>支出合計</u>	<u>2,392,188</u>	
〔前期繰越〕	<u>112,670</u>	前年度からの繰越分
〔次期繰越〕	<u>1,870,478</u>	次年度への繰越分

会員の皆さまとともに

当団体の活動は会員の皆さまによって支えられています。あたたかいご支援を賜り、誠に有難うございます。これからも皆さまとともにウミガメのことを考え、活動を進めてまいります。

〈賛助会員の皆さま〉

青木郁雄／今竹翔一郎／海田萌／加藤彰一郎／加藤梨沙／川下一成／倉永千枝／澤栗素紀／清水勇／下垣竜一郎／末田靖則／高橋佑征／高見昌文／瀧澤海遥／竹中康憲／田村洋俊／津波古優子／徳田和之／徳永章二／西田志郎／土方道磨／藤原好生／溝呂木舞波／三橋雄太／山下和輝／湯川浩子／Carl Bastian／Cheng Wan-Hwa／Whitlock 紗季、その他の方々。

（五十音・ABC順、敬称略、2025年3月末現在）

○会員の皆さまより寄せいただいたコメント（一部）

ウミガメの神秘性にロマンを感じます。今後どのように明らかになっていくのか楽しみです。／海に恩返しします／ウミガメ学、ワクワクしますね。／ウミガメが大好きなので、研究をされてる方々の少しでもお手伝いが出来れば嬉しいです(^^)／ウミガメ研究に新風を！／Lets save the turtles!!

〈協賛企業〉株式会社翔設計（<https://www.sho-sekkei.co.jp/>）

〈協力企業〉PR TIMES（<https://prtimes.jp/>）

〈協働研究団体〉特定非営利活動法人宮崎野生動物研究会（<https://www.m-yaseiken.org/>）

〈共同研究団体〉Upwell（<https://www.upwell.org/>）

一般財団法人沖縄美ら島財団（<https://churashima.okinawa/>）

特定非営利活動法人

Sea Turtle Ecology Lab

（略称：STEL）

住所：神奈川県横浜市鶴見区市場上町10-3-206

設立：2024年2月5日

理事長：菅沼弘行

E-mail（代表）：contact@stel.or.jp

ウェブサイト：<https://www.stel.or.jp>



ロゴマーク（制作：小鍛冶沙織／STEL）

STELのロゴは、太平洋を泳ぐアカウミガメの幼体がモチーフです。コンパスを持ち、進むべき方向を見据えて舵を取り、大きく漕ぎだそうとするウミガメに、「ウミガメ学」へ進む当団体の理念を重ねました。



©小鍛冶沙織（STEL）

For future "Sea Turtle-ology"

会員募集中



ウミガメの謎に挑む旅へ、一緒に踏み出しましょう！

ウミガメの祖先は1億2,000万年以上前に誕生したと考えられています。彼らは隕石の衝突による生物の大量絶滅、大陸の大移動や海流の変化、地磁気の逆転、大規模な気候変動といった地球規模の変動を乗り越え、今では海洋生態系に欠かせない存在となっています。

砂浜で生まれた稚ガメは広大な海へと泳ぎ出し、種によっては何千キロも回遊し、生まれた砂浜へ戻って産卵します。ウミガメはどこでどのように成長し故郷へ戻ってくるのか、この壮大な回遊のメカニズムは今も謎に包まれています。また、砂の温度によって性別が決まる独特の繁殖方法も、ウミガメの驚くべき生態のひとつです。

ウミガメは多くの神話や伝説に登場し、アートや装飾品のモチーフとしても愛されてきました。肉や卵は食用として、甲羅は装飾品として利用されるなど、文化的にも重要な存在です。

これまでの研究によって、ウミガメの生態について多くのことが明らかになりました。しかし、回遊ルートやナビゲーションの仕組み、繁殖行動の詳細、産卵場所の選択方法、そして稚ガメの性比の謎など、未解明の部分は数多く残されています。

わたしたちSTELは、科学的な視点からこれらの謎に挑み、ウミガメをより深く理解することで、「ウミガメ学（Sea Turtle-ology）」を創り上げていきます。

ウミガメの謎を解明するこの旅へ、あなたも一緒に歩んでいきませんか？

ウミガメに詳しくなくても、これまで関心がなくても、いつでもあなたを歓迎いたします。ご入会を心よりお待ちしております。

〈会員年会費〉学生：2,000円／口、一般：5,000円／口、団体・法人：50,000円／口（一般は月額プランもあり）

研究者を交えたイベント「ウミガメ会」などへの参加、会員同士の交流ができます。活動報告書をお送りします。

◇ご寄付を通じたご支援も心よりお待ちしております（会員と同様にイベントなどへの参加や会員同士の交流ができます）

※ご入会および詳細はウェブサイト（<https://www.stel.or.jp/together/>）をご覧ください。当団体へお問い合わせください。

ウミガメを知ろう

講演会のご案内

ウミガメの生態や保全、そして環境問題との関わりなどについて講演いたします。ご関心をお持ちの企業、団体、教育機関、大学の部活やサークルなどの皆さま、どうぞお気軽にお問い合わせください。



特定非営利活動法人
Sea Turtle Ecology Lab

E-mail : contact@stel.or.jp



Website ▷ <https://www.stel.or.jp>

Facebook ▷ <https://www.facebook.com/seaturtleecologylab/>

Instagram ▷ <https://www.instagram.com/seaturtleecologylab/>

X ▷ <https://x.com/seaturtleology>

YouTube ▷ <https://www.youtube.com/@seaturtleecologylab>